

勤医協歯科支援報告 2011.03.22~23 NO.2

支援行動開始の朝まず燃料補給からスタート。



松島海岸診療所の2階にて打ち合わせを行う。1階は津波で泥だらけになりまだ使えないところがあるのだ。避難所によっては組織だった支援になっていない所もあるようだ。

午前中支援歯科医師、現地歯科医師らは東松島市長、保健センターの保健師長と懇談、こちらは電気・ガス・水道がまだ復旧していない。現状認識の一致と今後の協力について相互に確認を行った。



残った支援スタッフは松島海岸診療所歯科の復旧作業を行った。水道は復旧していないため近くにある井戸水を汲み置きして使用しながら。もちろん飲めない。白衣が泥ですぐ汚れてしまうが洗濯もできない。こちらから持ってきたエプロンを現地スタッフに渡す。

水道復旧まではあと3日かかるとのこと。待ち遠しい。

昨日から臨時の小型コンプレッサーを引き込み3台のユニットが稼働できるようになった。診療室の床はそこそこきれいにして。待合室には積み上がった棚や椅子の隙間を縫うようにして急患が入ってくる。22日は7名の急患が来ていた。内容は避難所のおにぎりを食べたら梅の種でT-Fix（歯牙固定の接着）破折、ほか冠脱離、急化Per（根の先に膿がたまり腫れる）など。

午後からは避難所を回った。2ヶ所目に訪れたところは歯ブラシが届いておらずこちらで用意したのを提供して大変喜ばれた。

各地で支援物資として歯ブラシが送られているが、これは阪神・淡路大震災での教訓が生かされている。震災後2か月以内に死亡した「震災関連死」922人の中で最も多かったのは「肺炎」による死亡233人（24%）だったからだ。



滅菌器が壊れているためこちらから大量に持って行ったディスポのミラーが診療にも避難所回りにも大変役に立った。途中現地スタッフにもジュースをおすそ分け。震災後、初めての甘いジュースでとても喜ばれた。「あんた～もう飲んじゃったの～あたしなんかもったいなくて全部飲めないよ～」とは先輩スタッフの声。避難所回りのガソリンも貴重だ。家が遠い現地スタッフは持って行ったガソリンが届いてやっと出勤できた。

テレビでも放映されているが、スタンドでは前日の夜から並んでも2000円分しか買えない。



避難所回りが終わると群馬県連の利根歯科の支援団が到着、会議を行った。

東京3、徳島1、利根3、北海道3の10名と宮城のスタッフ12名。

一日が終了した。元避難所だった宿まではガソリン節約のため暗い道を歩いて戻る。それでも布団に寝られるのは他の大変な人たちを思うと大変申し訳なく思う。他の支援スタッフも同じ思いだ。



23日朝、行動スタート、今日は厚生協会の長町と古川にも回る。事前に買い込んだ食料で器用におにぎりを作る。

今日も1日、頑張ってきます(^o^)/

※twitterでは ittyan228、kinikyoshika、のアカウントでたまに入る情報をつぶやきます。

(西田歯科医師、市村衛生士とのやり取りをもとに作成 文責 荻原)